

ヒナを拾わないで！

春先から初夏に掛けては、鳥の世界では子育て真っ最中。
毎年、こんな理由で、ヒナが持ち込まれることがよくあります。

「ヒナが巣から落ちてきた」
「飛べないヒナがいる」
「ヒナを置いて、親がいなくなった」
「猫がうろうろしている」
「この付近はヘビが多いので」
「車が行き来する」 etc.

落ちてきたヒナが、羽毛がおおかた生えそろっていて、兄弟も落ちてきたならば、それは **“巣立ち”**

小型の野鳥は、出来る限り早く巣立ちすることで、敵に襲われにくくしているのです。
巣立ったばかりのヒナは、まだ上手に飛べません。着地した後、兄弟集まって安全な場所を探して隠れます。

数日間は、親は餌をせっせと運びます。

ヒナが十分に飛べるようになったら、親子で一緒に移動し、しばらくは、親から餌をもらいながら餌の取り方や、敵からの身の守り方など、その鳥としての教育を受けて、徐々に独り立ちをします。



キジバト

キジバトの兄弟

先に生まれた方は一足先に、小さい方は遅れて巣立ちます。巣立ちの後も、しばらくの間、同じ木に残って餌を待ちます。親は、一日に数回の給餌の時以外は、不在です。

巣立ったばかりのメジロの兄弟

親から餌をもらいます。親が去ったあと、隠れる場所がなかったので、やむなく保護。庭の草むらに放すと、自力で木に登り、2~3日間とどまって、餌をもらい、いつの間にかいなくなっていました。



メジロ



シジュウカラ

シジュウカラのヒナ

巣箱から巣立ったシジュウカラのヒナ同じ木にとどまり、親の餌を待ちます。2~3日でいなくなっていました。

5~6月頃、親子のシジュウカラが、木から木へ移動する姿をよく見かけます。

ヤマガラの子

巣立ってしばらくのヤマガラのヒナ(右)へ、親が給餌をしています。ヒナは、数日間、木の枝等に隠れて、餌を待ちます。



ヤマガラ



イソヒヨドリ

イソヒヨドリの親子

本来、海岸で繁殖していた鳥ですが、近年、町中のビルや建物の隙間など、身近な場所で子育てをするようになりました。おかげで、ヒナがよく持ち込まれてきます。

イソヒヨドリは、テリトリーを持ち、その範囲内で子育てをします。通常5～6羽のヒナを育てますが、最後に生まれたヒナはほとんど飛べないまま巣立ちをします。ヒナは、ビル蔭や人家の庭などに隠れて給餌を待ちます。飛べるようになって、テリトリー内で、自由に飛び回り、1ヶ月以上姿を見かけます。

このようなヒナを見かけても、大原則、**“さわらない”** どうしても心配ならば、近くの茂みや建物の蔭など、安全そうな所に隠してあげてください。

鳴き声で、親はヒナの居場所がわかります。

ヒトに育てられたヒナは、その鳥としての教育を受ける機会を奪われてしまうことになり、野生で生きていくことが困難になってしまいます。

「小さな親切」と思って保護したら、それは、鳥にとっては「大きな迷惑」カラスやヘビ、猫などと同じです。鳥のヒナにとって、巣立ちから独り立ちの時期が一番危険。

あなたには **“鳥の天敵”** になって欲しくないのです。